

使徒継承

七十人の一人、聖エウオディィオスから、シリア正教会アンティオキア総主教庁を経て、現在に至る

この継承の系譜に連なる

主教*

Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D.‡

諸国民への主教、使徒的委任のもとに

1. 聖エウオディィオス、七十人の一人 CO

紀元30年頃、七十人の一人としてキリストに遣わされた（ルカ伝福音書10:1）

紀元53年頃、聖ペテロの後のアンティオキア初代主教

この使徒継承の系譜は、紀元30年頃の使徒エウオディィオスから今日にまで及び、2026年現在で1,996年にわたる。

聖エウオディィオスからアンティオキア総主教Ignatius Peter IVまでの継承は、シリア正教会が保持するアンティオキア総主教の名簿に従う。これは、同教会が自らの使徒継承を、アンティオキアの初代主教であり聖エウオディィオスがその後を継いだ聖ペテロにまでたどる、その同じ名簿である。

聖エウオディィオスは正教会において七十人の一人である使徒として崇敬されており、正教会は9月7日に彼の祝日を守り、また1月4日に共に記念される七十使徒の中に彼を数えている。ローマ・カトリック教会は5月6日に、アンティオキアの主教聖エウオディィオスとして彼を崇敬し、シリア正教会をはじめとする東方諸教会（オリエンタル・オーソドックス）も同様に彼を崇敬している。歴史家エウセビオスは紀元325年頃、彼を聖ペテロの後のアンティオキア初代主教として記録し、また紀元380年頃の『使徒憲章』は、聖ペテロが彼を任命したと記録している。

主教職への聖別は、以下に名を挙げる諸教会を通じて、一人から次の一人へと行われた。

この系譜の主教の中には、聖人としても崇敬されている者がいる。その名の傍らの印は、生涯の聖性のみにかかわる。それはいかなる聖別の有効性にもかかわらない。聖人として崇敬されているか否かにかかわらず、表に挙げたすべての主教は、継承において等しくその位置を占めている。

聖 聖人：英雄的な聖性の生涯を送り、今は神のもとにある者として教会が公に崇敬し、その記憶を暦において記念する人。初代教会では、聖人は信徒とその主教たちの称賛によって認められた。のちには、ローマ・カトリック教会では正式な列聖によって、正教会では列聖（glorification）によって認められるようになった。

福者 福者：ローマ・カトリック教会において、列福された人。列福は聖人としての列聖に先立つ正式な段階である。

C ローマ・カトリック教会により聖人または福者として崇敬されている。

O 正教会により聖人として崇敬されている。

CO ローマ・カトリック教会と正教会の双方で聖人として崇敬されている。

赤 殉教者：信仰のために命をささげた者。

誰が聖人であるかについて、諸教会の見解は常に一致するわけではない。ある教会が、他の教会が崇敬しない人を崇敬することもあり、印はそれぞれの聖人をどの教会が崇敬しているかを示している。

アンティオキア

アンティオキアの主教座。「弟子たちのキリステアンと稱へらるる事はアンテオケより始れり」（使徒行伝11:26）とあるこの主教座は、聖ペテロがローマに赴く前に創立した。アンティオキアの主教および総主教たち、聖エウオディオスの後を継いだ聖イグナティオスから、シリア正教会とギリシャ正教会が共通して数える最後の総主教であるSeverusまで。

2. 聖イグナティオス CO 殉教者 68
3. Heron I 100
4. Cornelius 127
5. Heron II 151
6. 聖 Theophilus CO 169
7. Maximus I 188
8. 聖 Serapion CO 191
9. 聖 Asclepiades CO 212
10. Philetus 218
11. Zebinus 232
12. 聖 Babylas CO 殉教者 240

13. Fabius 253
14. Demetrian 256
15. Amphilochius 263
16. サモサタの Paul 267
17. Domnus I 270
18. Timaeus 273
19. Cyril 277
20. Tyrannion 299
21. Vitalius 308
22. 聖 Philogonius CO 314
23. Paulinus 324
24. 聖 Eustathius CO 325
25. Eulalius 332
26. Euphronius 333
27. Flacillus 334
28. Stephen I 341
29. Leontius 345
30. Eudoxius 350
31. 聖 Meletius CO 354
32. Anianus 357
33. Euzoius 360
34. Dorotheus 370
35. Paulinus II 371
36. Vitalius II 376
37. 聖 Flavian I CO 384
38. Porphyrius 404
39. Alexander 408
40. Theodotus 418
41. John I 427
42. Domnus II 443
43. Maximus II 450
44. Basil 459
45. Acacius 459
46. Martyrius 461
47. 縮絨工 Peter 465
48. Julian 466
49. John II 475
50. Stephen II 490
51. Stephen III 493
52. Calandion 495
53. John Codonatus 495
54. Palladius 497
55. Flavian II 505
56. Severus 513

シリア正教会総主教庁

518年のSeverusの罷免以降、シリア正教会のアンティオキア総主教たち（同教会が保持する名簿による）から、Ignatius Peter IVに至る。Ignatius Peter IVは1877年、インドの教会のためにコッタヤム主教Paulose Mar Athanasiusを聖別した。

57. テラの Sergius 544
58. 黒の Paul II 564
59. カリニコスの Peter III 581
60. Julian II 591
61. Athanasius I Gammolo 595
62. セドラ祈祷文の John III 631
63. Theodore 649

64. Severus II bar Masqeh 668
65. Athanasius II Baldoyo 684
66. Julian III 687
67. Elias I 709
68. Athanasius III 724
69. Iwannis I 740
70. George I 758
71. Joseph 790
72. ティクリートの Quriaqos 793
73. Dionysius I Telmaharoyo 818
74. John IV 846
75. Ignatius II 878
76. Theodosius Romanus 887
77. Dionysius II 897
78. John V 910
79. Basil I 923
80. John VI 936
81. Iwannis II 954
82. Dionysius III 958
83. Abraham I 962
84. John VII Sarigta 965
85. Athanasius IV Salhoyo 987
86. John VIII bar Abdoun 1004
87. Dionysius IV Yahyo 1031
88. John IX bar Abdun 1049
89. Athanasius V Yahyo 1058
90. John X bar Shushan 1064
91. Basil II 1074
92. John bar Abdun 1075
93. Dionysius V Lazarus 1077
94. Iwannis III 1086
95. Dionysius VI 1088
96. Athanasius VI bar Khamoro 1091
97. John XI bar Mawdyono 1130
98. Athanasius VII bar Qatra 1139
99. シリア人 Michael I 1166
100. Athanasius VIII bar Salibi 1199
101. John XII 1208
102. Ignatius III David 1222
103. Dionysius VII Angur 1252
104. John XIII bar Ma'dani 1252
105. Ignatius IV Yeshu 1264
106. Philoxenus I Nemrud 1283
107. Michael II 1292
108. Michael III Yeshu 1312
109. Basil III Gabriel 1349
110. Philoxenus II 1387
111. Basil IV Simon 1421
112. Ignatius Behnam Hadloyo 1445
113. Ignatius Khalaf 1456
114. Ignatius John XIV 1484
115. Ignatius Noah 1494
116. Ignatius Yeshu I 1509
117. Ignatius Jacob I 1512
118. Ignatius David I 1519
119. Ignatius Abdullah I 1521

120. Ignatius Ni'matallah 1557
121. Ignatius David II Shah 1576
122. Ignatius Pilate 1591
123. Ignatius Hidayat Allah 1598
124. Ignatius Simon 1640
125. Ignatius Yeshu II 1655
126. Ignatius Abdulmasih I 1662
127. Ignatius George II 1687
128. Ignatius Isaac II 1709
129. Ignatius Shukrallah II 1723
130. Ignatius George III 1746
131. Ignatius George IV 1768
132. Ignatius Matthew 1782
133. Ignatius Yunan 1817
134. Ignatius George V 1819
135. Ignatius Elias II 1838
136. Ignatius Jacob II 1847
137. Ignatius Peter IV 1872

インド、セイロンおよびアメリカ合衆国

Paulose Mar Athanasius から、各主教はその前に掲げた主教によって聖別された。1892年、Mar Athanasius と Mar Julius I は、パルマラの聖グレゴリオス（Gregorios）と共に、総主教の許しにより、セイロンのコロンボにおいて Joseph René Vilatte を聖別した。

138. Paulose Mar Athanasius 1877
139. Antonio Francisco Xavier Alvares (Mar Julius I) 1889
140. Joseph René Vilatte (Mar Timotheos) 1892
141. Francis John Edmund Barwell-Walker 1923
142. Emile Rodriguez y Fairfield 1961年頃
143. Nils Bertil Alexander Persson 1986
144. Samuel Guido, Jr. 2004

145.

Garland F. Byers, Jr.

2013

シリア正教会アンティオキア総主教と共有する継承

現在のシリア正教会アンティオキアおよび全東方の総主教である総主教 Ignatius Aphrem II とバイヤーズ主教は、聖エウオディオスから総主教 Ignatius Peter IV（1872–1894年アンティオキア総主教）に至るまで、同一の使徒継承の系譜を共有している。総主教 Peter IV は、両系譜の源となる主教たちを自らの手で聖別した。すなわち、総主教 Aphrem II の系譜においては、後の総主教 Ignatius Abded Aloho II で

> ある Gregorios Abded Aloho を1872年に、バイヤーズ主教の系譜においては、コッタヤムの主教 Paulose Mar Athanasius を1877年に聖別した。

聖職

按手

2008年8月17日、按手により。ペンシルベニア州パーマートンのSt. Paul's Lutheran Orthodox Chapelにて。

主教聖別

2013年4月20日、聖餐の執行の中で按手により。St. Paul's Lutheran Orthodox Chapel（この日はペンシルベニア州スラティントンのAmerican Legion Post 16で集会）にて。

主聖別者

主教 Samuel Guido, Jr.

共同聖別者

Bradley A. Varvil 主教

Michael Byus 主教

James Thompson 主教

按手および主教聖別の証書は、主教聖別の写真とともに、主教についてのページに掲載されている。

奉仕

2013年4月20日、Lutheran Orthodox Church, Inc. において主教聖別を受け、その後同団体において Western North Carolina 教区の大主教を務めた。バイヤーズ主教は現在、同団体に所属していない。

名誉神学博士（honoris causa）、Lutheran Orthodox Church, Inc. より授与、2013年4月20日。



本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：ウィキソース。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「……」で示しています。

アンティオキアの聖エウオディオス、イタリア派、17世紀。 Wikimedia Commons経由、パブリックドメイン。原画からサイズ変更を施した。